

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 31 日現在

機関番号：13901

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2022

課題番号：20K23192

研究課題名(和文)臨床研修医のアンプロフェッショナルな行動の評価を行う際の評価基準の開発

研究課題名(英文) Development of assessment criteria for the assessment of unprofessional behaviour of residents

研究代表者

木村 武司 (Takeshi, Kimura)

名古屋大学・医学部附属病院・病院助教

研究者番号：20459548

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では2021年の欧州医学教育学会で話題となったデジタル・プロフェッショナリズムの逸脱について特に焦点を当てて研究を進めた。また明確な定義が定まっておらず、事例報告も散発的な文脈や状況がそぎ落とされた形での報告が多い現状を踏まえ、まずデジタル・プロフェッショナリズムの逸脱と思われる行動の詳細な事例を収集するためのインタビュー調査を実施した。医学教育者11名へのインタビューし、25事例を集めた。リサーチクエッションに合わせて、テーマ分析にて解析中で、投稿に向けてまとめている。また、先行研究について調べた過程を日本語の総説としてまとめ、掲載された。(医学教育 2022, 53(2))

研究成果の学術的意義や社会的意義

新型コロナウイルス・パンデミックの影響からデジタルテクノロジーを利用した診療や教育の機会、あるいはその逸脱に関する報告が増えてきており、デジタル・プロフェッショナリズムについての評価にもこれまで以上に喫緊の課題としてとらえる必要が出てきた。本研究はその時代背景とテクノロジーの進歩によって生じた現代的な医学教育における課題を議論するにあたっての根拠の一つとすることができる。また、そのような議論の先には、デジタル・プロフェッショナリズムの教育を各大学医学部のカリキュラムや各研修病院のプログラムに反映させる可能性を資する。

研究成果の概要(英文)：This research focused specifically on the topic of digital professionalism lapse, which was the topic of discussion at the 2021 AMEE - Association for Medical Education in Europe. Given that digital professionalism has not yet been clearly defined and case reports are often sporadic or de-contextualised, we first conducted an interview survey to collect detailed examples of behaviour that could be considered lapse from digital professionalism. 11 medical educators were interviewed and 25 cases were collected. The results are being analysed in a thematic analysis in line with the research question, and are being compiled for submission. In addition, the process of research on previous research was summarised in a Japanese literature review and published.

研究分野：医学教育

キーワード：プロフェッショナリズム アンプロフェッショナルな行動

1. 研究開始当初の背景

本邦の医学教育においては、診療参加型臨床実習の広がりとともに、観察評価を中心とした Workplace-based Assessment が実施されるようになってきた。特に、患者とのコミュニケーションや医療安全にも関連する態度領域の評価は、プロフェッショナルリズム教育の枠組みの中で、いくつかの海外の大学において、インシデントレポートのような形式を用いて行われている。一方で、どのような行動を「問題ある態度」とするかについては、評価するそれぞれの医師・指導医によって見解が分かれることも多く、またどのような状況での行動か、また指導医との関係性、本人の背景など、多くの要素に影響を受ける。よって、大学の公式なカリキュラムや病院の臨床研修カリキュラムでプロフェッショナルリズムやプロフェッショナルとして相応しくない行動(アンプロフェッショナルな行動)の総括評価を行う場合、その妥当性・信頼性の担保が課題となっていた。

さらに、インターネットやスマートフォンが普及するにつれて、医学生や医師のプロフェッショナルリズムは新たな問題が出現してきた。特に近年はソーシャルネットワーキングサービス(以下、SNS)に関連したアンプロフェッショナルな行動についての報告が増加し、この傾向は本邦においても例外ではなかった。このようなデジタルメディアに関連したプロフェッショナルリズムをデジタル・プロフェッショナルリズム(あるいはeプロフェッショナルリズム/オンラインプロフェッショナルリズム)と呼び、その内容について議論が盛んである。さらに、新型コロナウイルスの流行からテレワークやオンライン会議の推奨がされるような時代背景も相まって、この議論の注目は一層増していった。

このように医師のプロフェッショナルリズムが時代の背景に沿った再構築を迫られている一方で、デジタル・プロフェッショナルリズムが指す内容やそれがどのように機能するかについては未だ十分には定まっていない。伝統的な医師の(医療者の)プロフェッショナルリズムの概念を補助する内容なのか、それとも別な原則や機能を持ちうるものなのかは検証の余地が残されている。また、偏った視点からデジタル・プロフェッショナルリズムを定義づけて研究することは差別やマイノリティの排除につながる警鐘を鳴らす報告もあり、科学的かつ検証可能な研究方法によってデジタル・プロフェッショナルリズムについてを明らかにすることが求められていた。

2. 研究の目的

上記のような背景を受け、本研究では、「どのような文脈における行動がデジタル・プロフェッショナルリズムの逸脱にあたる行動か?」という問いをリサーチクエッションとした。本研究の目的は、近年のインターネットやソーシャルメディアの発展に伴い表面化してきた、デジタル・プロフェッショナルリズムから逸脱した行動を今日的な文脈に即して明らかにし、その評価基準を開発に繋げることである。これによりデジタル・プロフェッショナルリズムに抵触する行動を明らかにし、新たな指針として広く運用することを目指すものである。

3. 研究の方法

< 先行研究の調査 >

医学教育におけるアンプロフェッショナルな行動とデジタルプロフェッショナルリズムについての先行研究を調査した。

< 事例のインタビュー調査 >

デジタル・プロフェッショナルリズムに関する評価に用いることのできる系統的な事例集作成を目指して、逸脱した行動に該当すると思われる事例の対応経験がある者にインタビューを行った。募集と実施は以下の手順で行なった。

1. 全国の大学医学部・医学部附属病院・臨床研修病院の指導医が加入するメーリングリスト UNIT の会(2020年12月現在、913名が加入)にてアンケートシステムのリンクを貼り、該当者を募集した。
2. アンケートシステムにて承諾を得られた者に、Web 会議システムを用いて1時間程度のオンライン・インタビューを実施した。

< インタビュー調査の形式 >

インタビューは以下のガイドに則った半構造化インタビューを行なった。

【インタビューガイド】

1. 今日お話しただけの事例について、まずは状況をお伺いします。デジタルメディアに関連したアンプロフェッショナルと思われる行動を取ったのは、医学生でしょうか? 研修医でしょうか?
2. その状況における先生のお立場をお教えてください。
3. いつ、何があったのか、詳しくお話しください。

4. その際に先生はどのように関わられたのでしょうか？
5. 4とも重なりますが、先生ご自身がされた対応についてお教えてください。
6. どうして、先生はその行動をアンプロフェッショナルと考えられたのでしょうか？
7. (時間があれば)先生もしくは同僚の方がとられた最終的な対応と当該の学生/研修医の反応についてお教えてください。
8. 他にお話しいただける事例はありますか？

4. 研究成果

1) 先行研究調査

先行研究調査の文献レビューから、これまでのアンプロフェッショナルな行動についての議論を日本語の総説としてまとめ、医学教育学会の学会誌に投稿して、掲載に至った。(医学教育 2022, 53(2))

2) 事例のインタビュー調査

11名にインタビューし、25事例について収集した。

インタビューは30代～50代で、男性9名と女性2名。10名が医師で、1名が non-MD である。

事例は SNS 関連が 16 例、それ以外のデジタル・デバイス関連が 9 例であった。

インタビューデータは文字起こしをすませ、テーマ分析の手法に則り、現在分析中である。分析が完了次第、投稿する予定としている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 木村 武司、錦織 宏	4. 巻 53
2. 論文標題 アンプロフェッショナルな行動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 163 ~ 169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11307/mededjapan.53.2_163	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------